

# 第 5 回：单回帰分析

## 【教科書第 5 章第 1 節～第 2 節, 第 4 節】

北村 友宏

2025 年 10 月 28 日

# 本日の内容

1. 単回帰モデル
2. 通常の最小二乗法 (OLS)

# 統計学と計量経済学での変数の表記の違い

- ▶ 統計学では確率変数を大文字で、実現値を小文字で表す。

$\Updownarrow$

- ▶ 計量経済学では確率変数と実現値を区別せず、行列を大文字で、ベクトルとスカラーを小文字で表す。

# 単回帰モデル

大きさ  $n$  の 2 変量データ

$((y_1, x_1), (y_2, x_2), \dots, (y_n, x_n))$  を用いて、

$$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i,$$

$$E(u_i | x_i) = 0,$$

$$E(u_i u_j | x_i) = 0 \quad (i \neq j),$$

$$V(u_i | x_i) = \sigma^2,$$

$$i = 1, 2, \dots, n$$

を推定することを考える。

これを推定すれば、2つの変数間の関係 ( $x_i$  が増加すると  $y_i$  はどの程度変化する傾向があるか?) を定量的に検証できる。

$E(u_i \mid x_i) = 0$  の仮定より、

$$E(y_i \mid x_i) = \beta_0 + \beta_1 x_i.$$

⇒ これは  $x_i$  が与えられたときの  $y_i$  の条件付き期待値。

- ▶  $E(y_i \mid x_i)$  を求めることを、  $y_i$  を  $x_i$  に回帰する (regress) という。
- ▶  $E(y_i \mid x_i)$  を与える式を回帰モデル (regression model) という。
- ▶  $x_i$  の 1 次式で表される回帰モデルを線形回帰モデル (linear regression model) という。
- ▶ 定数項以外の説明変数が 1 つである回帰モデルを単回帰モデル (simple regression model) という。

- ▶ 説明される側の変数を被説明変数 (explained variable) という。
  - ▶ 従属変数 (dependent variable) ともいう。
- ▶ 説明する側の変数を説明変数 (explanatory variable) という。
  - ▶ 独立変数 (independent variable) ともいう。
- ▶ 回帰モデルにおける係数を回帰係数 (regression coefficient) という。
- ▶ 個体や時点に依存せず、説明変数にも依存しない項を定数項 (constant term) という。
- ▶  $u_i = y_i - E(y_i | x_i)$  を誤差項 (error term) という。
  - ▶ 搅乱項 (disturbance term) ともいう。

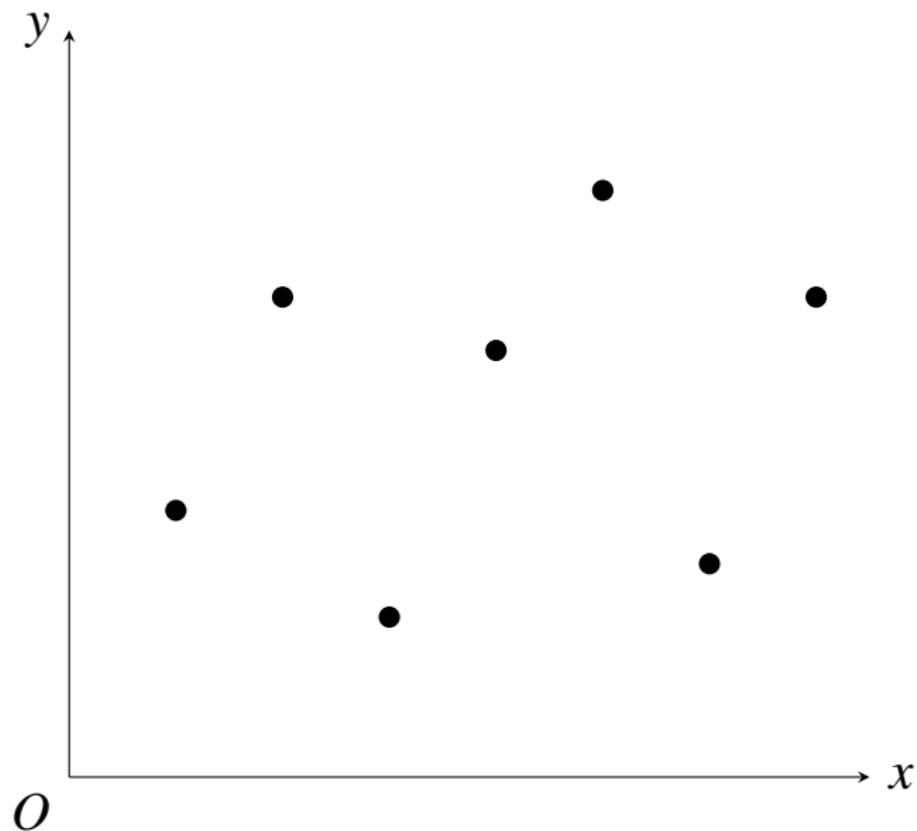
$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i$ において、

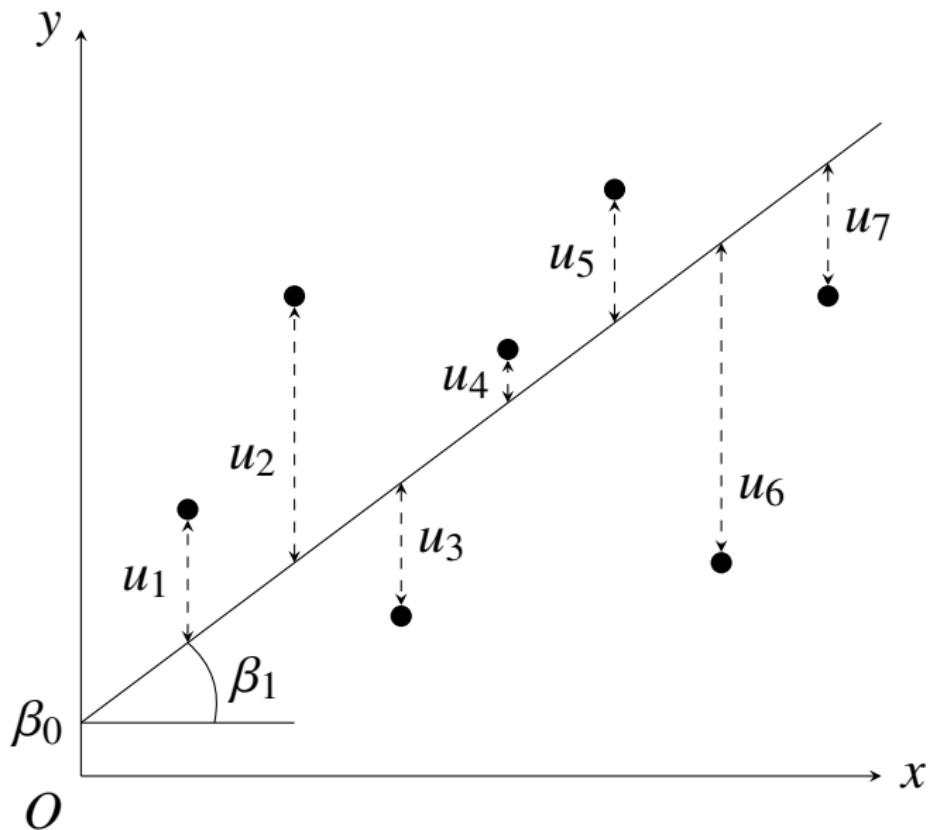
- ▶  $y_i$  : 被説明変数
  - ▶ e.g., 年収
- ▶  $x_i$  : 説明変数
  - ▶ e.g., 修学年数
- ▶  $\beta_0, \beta_1$  : 回帰係数
  - ▶ 特に,  $\beta_0$  は定数項.
- ▶  $u_i$  : 誤差項

説明変数  $x_i$  は確率的 (stochastic) とする。



$\beta_0$  と  $\beta_1$  を求める (推定する) には？





モデルを

$$y_i = \hat{\beta}_0 + \hat{\beta}_1 x_i + e_i$$

と書き換える。

- ▶ 誤差項の推定値を**残差 (residual)** という。
- ▶  $e_i$  : 残差
  - ▶ 誤差項  $u_i$  とは別物。

そして、残差二乗和

$$\sum_{i=1}^n e_i^2 = \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2$$

が最小になるような  $\hat{\beta}_0$  と  $\hat{\beta}_1$  を求める。

- ▶ 残差二乗和  $\sum_{i=1}^n e_i^2$  が最小になるように回帰係数を求める方法を**通常の最小二乗法 (Ordinary Least Squares, OLS)** という。

- ▶ OLS によって推定される統計量を **OLS 推定量 (OLS estimator)** といい、その実現値を **OLS 推定値 (OLS estimate)** という。

この場合の OLS 推定量は、

$$\hat{\beta}_0 = \bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x},$$

$$\hat{\beta}_1 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}.$$

- ▶  $\bar{y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i, \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i.$

(導出方法は付録参照)

# OLS 推定における仮定（单回帰の場合）

- ▶ 「説明変数を所与とした誤差項の条件付き期待値」と、「誤差項の条件なし期待値」が等しく、その値は 0.
  - ▶  $E(u_i | x_i) = E(u_i) = 0.$

⇒ 説明変数と誤差項は平均独立で、誤差項の期待値は 0.
- ▶ 説明変数を所与として、誤差項の条件付き分散は一定で、異なる個体の誤差項同士は無相関.
  - ▶  $V(u_i | x_i) = \sigma^2.$
  - ▶  $E(u_i u_j | x_i) = 0 \quad (i \neq j).$
- ▶ 説明変数を所与として、誤差項は正規分布に従う.
  - ▶  $u_i | x_i \sim N(0, \sigma^2).$

# 実証分析例：ミンサ一方程式の推定

「修学年数が増えると、年収がどれだけ増えるのか」を分析するためのモデル（ミンサ一方程式）

$$income_i = \beta_0 + \beta_1 yeduc_i + u_i$$

- ▶  $income_i$  : 年収（万円）
- ▶  $yeduc_i$  : 修学年数（年）
- ▶  $i$  : 個人番号

を推定する。

➡ 「年収」を「修学年数」に回帰する。

- ▶ 対数変換していないものをレベル (level) という.
  - ▶ 被説明変数と説明変数がともにレベルであるモデルを「レベル=レベル・モデル」ということがある.
- ➡ 前スライドのモデルは、被説明変数も説明変数も対数変換していないため、「レベル=レベル・モデル」である.

# レベル=レベル・モデル推定結果

gretl: モデル1

ファイル 編集(E) 検定(I) 保存(S) グラフ(G) 分析(A) LaTeX

モデル 1: 最小二乗法(OLS), 観測: 1-4327  
従属変数: income

	係数	標準誤差	t 値	p 値	
const	-56.8928	19.3568	-2.939	0.0033	***
yeduc	23.1510	1.38425	16.72	6.85e-061	***

Mean dependent var 263.9040 S.D. dependent var 176.5552  
Sum squared resid 1.27e+08 回帰の標準誤差 171.1286  
R-squared 0.060744 Adjusted R-squared 0.060527  
F(1, 4325) 279.7095 P-value(F) 6.85e-61  
Log-likelihood -28389.98 Akaike criterion 56783.96  
Schwarz criterion 56796.70 Hannan-Quinn 56788.46

# 出力結果の見方

- ▶ 係数: 回帰係数推定値
- ▶ 標準誤差: 回帰係数の標準誤差
  - ▶ 第8回授業で説明
- ▶ t 値: 「回帰係数が 0」 という帰無仮説の両側  $t$  検定における検定統計値 ( $t$  値)
  - ▶ 第8回授業で説明
- ▶ p 値: 両側  $p$  値
  - ▶ 第8回授業で説明
- ▶ 回帰の標準誤差 : 誤差項の標準偏差の推定値
- ▶ R-squared: 決定係数

# 誤差項の分散の推定

定数項のある単回帰モデルの場合、誤差項  $u_i$  の（条件付き）分散

$$V(u_i \mid x_i) = \sigma^2,$$

は、以下のように推定できる。

- ▶ 誤差項の分散の推定量：

$$s^2 = \frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{n - 2}.$$

この  $s^2$  は不偏性をもつ、すなわち  $E(s^2) = \sigma^2$  となることが知られている。（証明は省略）

# 誤差項の標準偏差の推定

定数項のある単回帰モデルの場合、誤差項  $u_i$  の（条件付き）標準偏差  $\sigma$  は、以下のように推定できる。

- ▶ 標準偏差の推定値を**標準誤差** (standard error) という。
- ▶ 誤差項の標準偏差の推定量：

$$s = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{n - 2}}.$$

この式の  $n$  と  $e_1, e_2, \dots, e_n$  に具体的な値を代入すれば、誤差項の標準偏差の推定値（誤差項の標準誤差）を計算できる。

# 決定係数

決定係数 (R-squared) は,

$$R^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (\hat{y}_i - \bar{y})^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2} = 1 - \frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}.$$

- ▶ 定数項ありの单回帰の場合,  $\hat{y}_i = \hat{\beta}_0 + \hat{\beta}_1 x_i$ .
  - ▶ **意味** モデルの当てはまりの良さ（説明変数で, 被説明変数の動きのうち, どの程度の割合を説明できているか）
  - ▶  $0 \leq R^2 \leq 1$ .
    - ▶  $R^2 = 0$  : 全く説明できていない.
    - ▶  $R^2 = 1$  : 完全に説明できている.
- $\Rightarrow R^2 = 0$  や  $R^2 = 1$  になることは, 実際の実証分析ではまず起こり得ない.

# モデル推定結果

## ▶ 修学年数の係数

- ▶ 23.151 (符号は正)

→ 修学年数が 1 年長くなると、年収が平均して  
23.151 万円 (231,510 円) 高くなる傾向がある。

## ▶ 定数項

- ▶ -56.8928 (符号は負)

## ▶ 誤差項の標準誤差

- ▶ 171.1286

## ▶ 決定係数

- ▶  $R^2 = 0.060744$ .

→ 「年収」の動きの約 6.1%を「修学年数」の動き  
で説明できている。

# 今日のキーワード

回帰する，回帰モデル，線形回帰モデル，単回帰モデル，被説明変数，説明変数，回帰係数，定数項，誤差項，残差，通常の最小二乗法（OLS），OLS推定量，OLS推定値，レベル，標準誤差，決定係数

# 次回までの準備

- ▶ 今回の講義スライドを読み直す.
- ▶ 「提出課題 2」に取り組む.
- ▶ 教科書第 5 章第 3 節, 第 5 節を読む.

# 付録：「(定数項を含む) 単回帰モデル」の OLS 推定量の導出

残差二乗和最小化問題は、

$$\min_{(\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1) \in \mathbb{R}^2} \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2.$$

1 階条件は、

$$\begin{aligned}
& \frac{\partial \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2}{\partial \hat{\beta}_0} = 0 \\
\Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n 2(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) \cdot (-1) = 0 \\
\Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0,
\end{aligned} \tag{1}$$

$$\begin{aligned}
& \frac{\partial \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2}{\partial \hat{\beta}_1} = 0 \\
\Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n 2(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) \cdot (-x_i) = 0 \\
\Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0.
\end{aligned} \tag{2}$$

(1) より、

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0 &\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - \sum_{i=1}^n \hat{\beta}_0 - \sum_{i=1}^n \hat{\beta}_1 x_i = 0 \\ &\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - n\hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n x_i = 0 \\ &\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n x_i = n\hat{\beta}_0 \\ &\Leftrightarrow \hat{\beta}_0 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i - \hat{\beta}_1 \cdot \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i. \end{aligned}$$

$$\bar{y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i, \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$$

とすると、 $\hat{\beta}_0$  は、

$$\hat{\beta}_0 = \bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}. \quad (1')$$

(2) と (1) より,

$$\sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \bar{x} \underbrace{\sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)}_{(1) \text{ より, } 0 \text{ となる}} = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \sum_{i=1}^n \bar{x}(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n \{x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \bar{x}(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)\} = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0.$$

(1') を代入すると、

$$\begin{aligned} & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}) \left\{ y_i - (\bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}) - \hat{\beta}_1 x_i \right\} = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y} + \hat{\beta}_1 \bar{x} - \hat{\beta}_1 x_i) = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}) \left\{ y_i - \bar{y} - \hat{\beta}_1(x_i - \bar{x}) \right\} = 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n \{(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - (x_i - \bar{x})\hat{\beta}_1(x_i - \bar{x})\} = 0 \\
&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})\hat{\beta}_1(x_i - \bar{x}) = 0 \\
&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = 0 \\
&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) = \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \\
&\Leftrightarrow \hat{\beta}_1 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}.
\end{aligned}$$